

平成 28 年度

学校法人爽青会

専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー

【自己点検・評価および学校関係者評価報告書】

平成 29 年 3 月

学校法人爽青会

専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー

自己点検・評価委員会／学校関係者評価委員会

1 本校の概況

1. 設置者 学校法人 爽青会 理事長 中野勸次郎
2. 学校名 専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー
3. 校長名 中野勸次郎
4. 認可 平成7年3月20日
5. 開校 平成7年4月1日
6. 所在地 〒430-0943 静岡県浜松市中区北田町 130-12 (Tel) 053-452-2121
7. 課程 文化・教養専門課程
8. 学校の沿革
 - 平成7年3月 専修学校制度に基づき、専修学校の認可を受ける
 - 平成7年4月 専門学校ルネサンス・アカデミー オブ デザイン開設
 - 平成17年4月 専門学校ルネサンス アカデミーに校名変更
総合デザイン学部・動物関係学部を開設
 - 平成20年3月 学校法人爽青会 認可
 - 平成21年4月 専門学校ルネサンス・デザイン アカデミーに校名変更
 - 平成26年3月 設置4学科で職業実践専門課程認定
 - 平成27年4月 イラストレーション科、広告・写真・Web デザイン科で3年制課程開始
 - 平成28年4月 衛生専門課程 美容師科開設

9. 校訓

Every dog has his day. (みんな輝くときが来る)

10. 教育目標

日本人ならではの徳性・新旧の美意識と接客から学び、日本流・新デザインを世界に問う

重点項目

- ・教育理念教育（幹部職員研修を実施）
- ・第三者評価の維持（学校関係者評価の継続）
- ・入学者増員対策（3年制の進化・定着およびマスター科の活用）
- ・納得・自活就職内定の進化（早期予測の進化、新規開拓30軒と分析、
就職保護者会による保護者協力体制構築）
- ・3年制学科の就職先維持（定期的な企業訪問）
- ・新学科：美容師科の安定運営（国家資格試験対策授業、学生募集強化、教員の育成&採用）
- ・新3年制学科の2年次教育計画／就職指導方針策定
- 広告・写真・Web デザイン科：オペレーター教育からの脱皮・自主自立心の育成授業の試行
- イラストレーション科：イラスト商品化ステージ・コンペ/企業コラボ実績の強化
- ・最終学年（建築士・インテリアコーディネーター科の効率運営
- ・募集停止学科（プロマンガ科のイラストレーション科への併合/教育内容の整合）
- ・学生数減に伴う授業運営の効率化・担任の兼任

1 1. 設置学科（平成 2 8 年度～）

イラストレーション科（昼 3 年 男女 定員 40 名）

広告・写真・Web デザイン科（昼 3 年 男女 定員 40 名）

プロマンガ科（昼 2 年 男女 定員 40 名）

ブライダル・トータルビューティー科（昼 2 年 男女 定員 40 名）

建築士・インテリアコーディネーター科（昼 2 年 男女 定員 30 名）

マスター科（昼 1 年 男女 定員 5 名）

1 2. 学生数 （平成 29 年 2 月 1 日現在） 120 名

1 3. 教職員数 （平成 29 年 2 月 1 日現在） 18 名

1 4. 学校建物面積 2 1 1 5 m²

2 自己点検・自己評価委員会

1) 委員名簿

1. 学校長 中野勘次郎 (委員長)
2. 本部長 中野祐子
3. 事務局 中野良太
4. 事務局 林千洋
5. 事務局 杉浦英樹
6. 教務部 池田孝司
7. 教務部 前田健一
8. 教務部 竹田侑里

・監査委員

1. 事務局長 藤原研一
2. 事務局 鈴木博昭

2) 自己点検・自己評価制作の流れおよび委員会開催記録

- 平成29年1月16日 自己点検・評価委員会 第1回会議
平成29年1月23日 自己点検・評価委員会 第2回会議
平成29年2月20日 自己点検・評価委員会 内部監査
平成29年5月6日 設置者への報告
平成29年5月15日 ホームページにて外部への公開

3 学校関係者評価委員会

1) 委員名簿

1. 阿部 徹 元静岡県教育長
2. 鈴木 かおる 株式会社浜松ビジネススクール 代表
3. 安武 伸朗 UX (User Experience) Shizuoka 代表
4. 原 大二郎 公益社団法人日本動物病院協会 副会長

2) 開催日・場所

- 平成29年2月21日 専門学校ルネサンス・デザイン アカデミー401教室にて開催

4 評価一覧

	評価項目 《適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1》	自己点検 自己評価	学校関係者 評価
1 教育理念・目標	① 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4	4
	② 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか	4	4
	③ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	4
	④ 学校における職業教育の特色は明確になっているか	4	4
	⑤ 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	4
2 学校運営	① 専修学校設置基準及び職業実践専門課程の認定要件に沿った適切な運営がなされているか	4	4
	② 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	4
	③ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	4
	④ 目的等に沿った事業計画が策定されているか	3	3.3
	⑤ 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	4
	⑥ 人事、給与に関する制度は整備されているか	4	4
	⑦ 教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか	4	4
	⑧ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3	3.5
	⑨ 教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	4
	⑩ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	4
	⑪ 教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか	4	4
	⑫ 学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順（予防処置及び是正処置）を確立しているか	3	3.3
	⑬ 利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか	4	4
3 教育活動	①教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3	3.5
	②キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	3.5
	③教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	4
	④デザイン・ビューティー関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	4

	⑤資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	4
	⑥学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	4
	⑦Can-Do を意識した各科目の授業シラバスが作成されているか	3	3.5
	⑧デザイン・ビューティー関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	4
	⑨シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか	4	4
	⑩実習室等の学校施設、設備の利用割り当て（スケジュール管理）が明確になっているか	4	3.8
	⑪学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか	4	4
	⑫成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	4
	⑬職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	4
	⑭授業評価の実施・評価体制はあるか	3	3.5
	⑮閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか	4	4
	⑯教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況（学習環境等）を確認・検証しているか	4	4
	⑰人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	2.8
	⑱教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか	3	3
	⑲デザイン・ビューティー関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	4
	⑳職員の能力開発のための研修等が行われているか（研修等の効果の評価し、文書により記録しているか）	3	3.5
	21 デザイン・ビューティー関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	2	2.3
4 学 修 成 果	①学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか	4	4
	②卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	3.3
	③評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか	3	3.3
	④学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか	4	4
	⑤成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか	4	4
	⑥ニーズ調査結果に基づき目的（到達目標）を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか	3	3.5
	⑦学習サービス（教育・訓練）を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか	3	3.3

	⑧卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	4
5 学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	4
	②学生相談に関する体制は整備されているか	4	4
	③保護者と適切に連携しているか	4	4
	④社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	4
	⑤卒業生への支援体制はあるか	3	3
	⑥図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか	4	4
	⑦学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	4
	⑧学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	4
	⑨課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	4
	⑩学生の生活環境への支援は行われているか	4	4
	⑪高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	4
6 教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	4
	②学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか	3	3.3
	③教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか	4	4
	④防災に対する体制は整備されているか	4	4
	⑤学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	4
7 学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか（例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか）	4	4
	②履歴書（学歴、所有資格など）を適切に入手し、適切な管理を行っているか	4	4
	③学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか	4	4
	④学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4	4
	⑤学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	4
	⑥評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか	4	4
	⑦学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか	4	4
	⑧教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか	4	4
	⑨学納金は妥当なものとなっているか	4	4
	⑩志願者状況、定員充足率はどうか	2	2.8

8 教育の内部質保証システム	①個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	4
	②法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	4
	③文書管理規程、文書管理リスト（ファイル管理簿）ならびに決裁の流れを含む決裁規程（文書処理規程）が文書化されているか	2	2.5
	④自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか	3	3.3
	⑤監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか	4	4
	⑥内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか	3	3.3
	⑦内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか	3	3.3
	⑧自己点検・評価結果を公開しているか	4	4
9 財務	①財務について会計監査が適正に行われているか	4	4
	②財務情報公開の体制整備はできているか	4	4
	③中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	3.5
	④予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	4
10 社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	4
	②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	4
	③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3	3.3
11 国際交流（必要に応じて）	①留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	-	-
	②留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	-	-
	③留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	-	-
	④学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	4

5. 評価の理由とコメント

	評価項目: 適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
		評価	評価の理由	評価	コメント
1 教育理念・目標	1 理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	理念・目的・育成人材像は毎年検討・更新され、教職員は原点確認研修資料、学生は学生必携にて周知している。	4	評価理由の後半は1-5の評価ではないか(安倍) 人材像の提示の仕方として主語が明確であるほど、より専門性の特性が理解出来る(安武)
	2 学校の将来構想を描くために、業界の動向やニーズを調査しているか	4	学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、またインターンシップ等の実習日誌企業評価にて業界の動向・ニーズを調査している。	4	対外的(外部からの観点)では包括的な記述よりも絞り込まれた具体的な内容の方が共感しやすいように感じる(安武) 誠実に取り組んでいる(鈴木)
	3 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	教育課程編成委員会・実習日誌企業評価と学生授業評価を基に学科運営計画を立て、シラバスを作成している。	4	シラバス作成の打ち合わせが密に出来ている(鈴木)
	4 学校における職業教育の特色は明確になっているか	4	デザイン・ビューティー系の職種として実践教育を展開する学科を4つに分類して運営している。	4	
	5 理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4	OCや保護者説明会、入学式後の説明会、オリエンテーションにて複数回説明の場を設定し周知している。	4	理念から学科の育成人材像までの説明を繰り返し行う必要があり、構造図で1枚にまとめるとわかりやすい(安倍) 多くの機会を持てるよう工夫している(鈴木)

① 課題

教育理念等は明確に定められ、文書等で教職員並びに学生・保護者に適切に提示説明している。

② 今後の改善方策

継続実施する。

③ 特記事項

爽青会オリジナルの「伸びしろのある人材養成プログラム」を2017年度から運用予定。

《学校関係者評価委員会での意見》

1 専門士としての人材像と学校の育てる人材像について、合致部分、学校独自部分をどう考えるか。

・初出式での配布資料は包括的人材像であり、分解して各学科運営方針や学科計画に落とし込んでいる。

入学者・保護者に対して学科ごとにどんな人材を目指しているのかわかるようになっている。

	評価項目: 適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1	自己点検・自己評価		学校関係者評価		
		評価	評価の理由	評価	コメント	
2 学校運営	1	専修学校設置基準及び職業実践専門課程の認定要件に沿った適切な運営がなされているか	4	必要に応じて学則変更を適宜実施し、専修学校設置基準及び職業実践専門課程認定要件に沿った運営をしている。	4	
	2	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	就業規則内で定める運営組織や意思決定機能を校務分掌に落とし込み、適切に機能させている。	4	
	3	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	財務は経理規定で、教務に関しては主として学科運営方針にて、意思決定システムを整備している。	4	
	4	目的等に沿った事業計画が策定されているか	3	事業計画策定は理事会・評議員会にて行われているが、計画書として残していない。	3.3	左記自己評価に準じる(安武)
	5	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	毎年反省・見直しを実施し、学校長の承認を経て運営方針を策定している。	4	
	6	人事、給与に関する制度は整備されているか	4	人事制度マニュアルにて整備している	4	
	7	教職員と非常勤講師等との定期的な情報共有を図っているか	4	年2回の講師会全体会にて意思統一を図り、分科会にて学科ごと情報共有の場を設けている。毎授業ごと授業報告書にてリアルタイムな共有を図っている。	4	年2回の講師会実施や参加者の意識の高さは他の専門学校よりかなり上だと感じる(鈴木)
	8	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3	苦情等に対する対応マニュアルは作成されているが、全職員への徹底に不足がある。	3.5	講師会全体会等で徹底を図って欲しい対応事例集や一斉メール送信での情報の蓄積、共有化も検討されたい(安倍) 記録を徹底するシステムを要す(原) 業界・社会に関して労働環境等評価を行っていることは評価できる(安武) コンプライアンス意識は高い(鈴木)
	9	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	職業実践専門課程認定条件に準拠した情報を公式ホームページにて公開している。	4	
	10	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	学内グループウェアの活用ならびにサーバ管理システムにより、業務効率化が図られている。	4	
	11	教育方針や目標を含むマネジメントシステムの継続的な適合性、妥当性、有効性を確保するためにマネジメントレビューを実施しているか	4	月に1回の経営会議内において、教育の現状把握・分析とともに学校運営の仕組みそのものに関しても見直しを図っている。	4	継続実施出来ている(鈴木)
	12	学生や保護者、その他利害関係者からの苦情・要請等への対応など、不適合を特定し、対処する手順(予防処置及び是正処置)を確立しているか	3	予防措置及び是正措置規定は作成されているが、全職員への徹底に不足がある。	3.3	講師会全体会等で徹底を図って欲しい対応事例集や一斉メール送信での情報の蓄積、共有化も検討されたい(安倍) 記録化が未整備(原) 自己評価に準ずる(安武) 確立できているが、途中入社した職員への指導は必要(鈴木)
	13	利害関係者が不満を抱いている場合や、利害関係者と学校側とで意見の相違がある場合の相談受付方法を案内しているか	4	相談受付方法は学生必携に明記し、オリエンテーションにて周知している。また、ホームページに問い合わせフォームを設置し、学外からの相談窓口も設置している。	4	

① 課題

是正処置及び予防処置規定、問い合わせ等対応マニュアルが浸透しておらず、利害関係者からの苦情・要請についての事例・対応・効果についての記録が残せていない。

② 今後の改善方策

新職員も含め是正処置及び予防処置規定、問い合わせ等対応マニュアルについて説明する場を設け、全職員の共通認識とする。

③ 特記事項

なし

《学校関係者評価委員会での意見》

4 目的とは何を指しているか。

・教育目標を指す。学則第3条に記載されている。

4 計画策定と計画書の違いは何か。考えている計画書とはどんなイメージか。

・理事会にて討議の上で記録を残しているが、事業計画書としての定をなしていない。

・計画書は法人運営と教育目標の2本組であり、予算・教育目標・教育の質向上などを明記。

8 労働者の就業時間の意識が変わってきているが、就職指導上の受入先の評価はどうか。

・デザイン業界の印象が変化している。学生・保護者が何を望み、どう働きたいかを把握する、一方で企業訪問にて企業側の情報を収集する。

8 苦情対応は記録を残す仕組みになっているか。

・原則記録するが、フォームや内容がバラバラで現状やっているとは言えない。

・いつ解決したかまで記録し、誰でも見られるようにするとスタッフにとっても心強い資料になる。

	評価項目: 適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1	自己点検・自己評価		学校関係者評価		
		評価	評価の理由	評価	コメント	
3 教育活動	1	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3	授業時間以外の学習時間の想定が不十分であり、現状シラバスに明記する事が出来ていない。	3.5	評価として、制作内容(〇%)、学習態度(〇%)、自宅学習の内容(〇%)という明記があり得る(安武)
	2	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3	教育課程編成委員会により有識者からの視点を取り入れた教育計画は策定されているが、教育方法の研究・開発・教員指導(教員間の授業見学等)に不足がある。	3.5	授業公開週間のような取り組みはどうか(安倍) 専門士＝産業界に必要な人材との捉え方が精密である反面、「21世紀スキル」のような先駆けた人材像の具体的な提示があっても良い(安武)
	3	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	教育理念の策定から共有、続く教育計画の策定、実行、検証に至るまで、一貫した施策がとられている。	4	
	4	デザイン・ビューティー関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	教育課程編成委員会および関係団体からの意見、就職先企業の要望等で得た意見や指摘を年度後期または次年度に反映し、必要な見直しを行っている	4	
	5	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	特に必修受験資格に関しては、授業内に対応科目を配置し指導し、必修・任意資格いずれにおいても高い合格率を達成した。	4	熱心に取り組まれている(鈴木)
	6	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	教育目標と学習習得ステージを基に、専門講義科目、専門実習科目、一般科目に分類し、実習と講義のバランスがとれたカリキュラムを編成している。	4	
	7	Can-Doを意識した各科目の授業シラバスが作成されているか	3	2016年度より、Can-Doを意識したシラバスへと順次移行している。	3.5	達成目標について項目が多すぎるのではないかと(安武) 以前より講師と密に連携を取っている(鈴木)
	8	デザイン・ビューティー関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	1年次末、2年次夏の計2回、3年生学科においては3年次中にもインターンシップを全学生が実施している。	4	
	9	シラバスあるいは講義要項などが事前に学生に配布されているか	4	各授業開始時の授業オリエンテーションにおいて、各講師から配布し説明している。	4	
	10	実習室等の学校施設、設備の利用割り当て(スケジュール管理)が明確になっているか	4	授業名、担当者、使用教室、授業時間を明記した時間割表を作成し、講師会資料等で共有している。一部の設備についてはグループウェアを活用し割り当てを明確化しているが、十分ではない。	3.8	
	11	学生によるアンケートなどで、適切に授業評価を実施しているか	4	テキスト/教材・成果等の項目を追加した授業アンケートを2016年度から順次実施している。	4	教育目標の達成度に関するアンケートや評価と、教員の授業運営に関するアンケートや評価を分けることで、期待出来る人材育成の度合いが見えやすくなると感じる(安武)
	12	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	学生においては学生必携内に成績評価、進級規程等を明確に記載し、周知している。	4	
	13	職業教育に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	インターンシップ受け入れ企業への訪問や実習評価表への評価を受け、その後の学生指導やカリキュラムの編成に活かしている。	4	
	14	授業評価の実施・評価体制はあるか	3	授業アンケートや学生満足度調査で授業評価を実施し、講師会等で常勤講師・非常勤講師に共有し、検証している。授業評価会議については、教務部会内や学科内での検証に留まり、専門の会議体としては実施されていない。	3.5	個々の講師の評価結果、全体としての本校の授業傾向(強み・弱み)を共有化する必要がある(安倍) 学科運営会議等で検証・評価されていると感じる(安武)

15	閲覧権限の設定がなされ、個人情報保護への配慮がされているか	4	就業規則や講師契約書に個人情報の保護に関する規程を設け、またデータ等はアクセス制限を設け個人情報保護に配慮している。	4	
16	教育の質向上に役立つ改善点を明確にするために、教育を提供している状況(学習環境等)を確認・検証しているか	4	講師の意見を授業報告書から、学生の声を授業アンケート等から集め、定期的に開催する教務部会で学習環境等の確認・検証している。	4	
17	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3	常勤教員の退職により、教員の確保が大変厳しい年度となった。2016年度内に採用・異動等で対処し、2017年度は必要十分な教職員数で教育計画を遂行できる体制となっている。	2.8	自己評価に準じる(安武)
18	教職員のコンピテンシーを職務記述書と関連付けながら評価し、それらの評価結果を記録しているか	3	職務記述書は完成し共有されているものの、周知・理解が不十分であり、今後の活用が待たれる。	3	自己評価に準じる(安武)
19	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	教員のキャリアに応じて、専門実務研修並びに指導力研修を実施している。	4	
20	職員の能力開発のための研修等が行われているか(研修等の効果を評価し、文書により記録しているか)	3	開催している教員研修に関しては参加者からの報告書によって、研修成果等を記録しているが、その効果を評価し記録していない。	3.5	周知・理解はベツ校よりも上と感じる(鈴木)
21	デザイン・ビューティー関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	2	一部の学科を除いて、業界団体との連携が希薄であり、新規の加盟・連帯確保が必要である。	2.3	1年ごと・学科ごとの数値目標を設けるのは難しいか(安倍) 大変重要な点で、地域の教育機関(インフラ)としての公益性・公共性が問われるところとして、またメタ視点での教育の質保証として、ウイークポイントにならないようにと感じる(安武) 努力して欲しい(鈴木)

① 課題

- ・研修成果等を記録しているが、その効果を評価し記録していない。
- ・一部の学科を除いて、業界団体との連携が希薄である。

② 今後の改善方策

- ・研修等の効果を評価するしくみ作りに取り組み、文書に記録し蓄積することで、より研修効果を上げていく
- ・研修計画を予算ベースから見直し、個々の経歴に合わせて適切に実施し、教育の充実を図る。また職務経歴書を読み解く研修会と開催し、できる業務とできない業務、これからできるようになるべき業務を可視化できるよう取り組む。
- ・業界団体(JAGDA等)を調査・検討し、加盟すべき団体への手続きを実施する。

③ 特記事項

新設の3年制学科と2年制の美容師科の完成年度を控え、これまでの達成事項と反省点を踏まえつつ、改めて業界のニーズを収集し、カリキュラムの充実、学校行事の効果的配置を検討・試行する。

《学校関係者評価委員会での意見》

11 授業アンケートが運営側アンケートの印象。教育目的と授業アンケートの内容に距離があるのではないか。

- ・アンケートでは手段を評価している。この評価を経て目的評価をする場を設けても良いと考える。学科計画作成時はアンケートを基に反省し、次年度カリキュラムに落とし込んでいる。

	評価項目: 適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
		評価	評価の理由	評価	コメント
4 学 修 成 果	1 学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているか	4	修学成果が必要となる、授業、インターンシップ、卒業・修了制作において、実施内容と成果目標に見合う評価表を各種定め、内容の見直しを担当者、学科、関係企業で実施されている。	4	
	2 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	在校生は、インターンシップや企業コラボレーション、ボランティア等の課外活動にて把握している。一方、卒業生は、企業訪問や同窓会・校友会HP等を通してではないが把握できている。	3.3	把握は難しいと思うが、卒業後の状況把握は学校経営・後輩学生にとって重要なデータとなる(安武) 多様な人生をリスペクトする姿勢を広くPRする地道な努力が必要(安武) 何を持って専門学校の学習成果かという捉え方を広げる(安武)
	3 評価目標ならびに想定される評価範囲を記述できているか	3	定期試験など評価が必要となる項目ごとに評価目標及び範囲を規定しているが、一部文書化がなされていない。	3.3	保護者・産業界から見たわかりやすさが求められる(安武)
	4 学生の評価だけでなく、教職員やカリキュラムの評価も含め、評価方法及び手段、スケジュール及び根拠を記述しているか	4	教職員の評価(人事・授業等)を年間計画で実施している。また第2回教育課程編成委員会においてカリキュラムを提示し評価を受けている。	4	
	5 成績証明書等、評価結果が社会的通用性を高める形式となっているか	4	成績証明書、卒業証明書、在学証明書等は学生の就職活動や資格試験に支障がないよう、社会的通用性を持った様式で作成している。	4	
	6 ニーズ調査結果に基づき目的(到達目標)を設定し、目的に対する評価を結論としてとりまとめた評価報告書を作成しているか	3	講師会や教育課程編成委員会にて報告書として提示している。また、インターンシップの評価は、就職保護者会に図表データで作成しているが、表記方法が統一されておらず、わかりにくい。	3.5	
	7 学習サービス(教育・訓練)を受託または委託する場合、目的、要望、最終目標及び要件を明確にしているか	3	授業目的や最終目標は講師会にて書面で提示し、共有検証も図っている。しかし、要望に関しては、口頭での打ち合わせが多く、明文化されていない。	3.3	自己評価に準じる(安武)
	8 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	各学科、年に数回卒業生に來校頂き、卒業生講話を実施。その際に、出た実情やヒアリングをもとに教育活動の改善を実施。また、企業訪問を行い卒業生に対する企業側のご意見を招集し改善を図っている。	4	多様なキャリアを認める余地を設けるかどうか難しいところ(安武)

① 課題

在校生は、インターンシップや企業コラボレーション、ボランティア等の課外活動にて把握している。一方、卒業生は、企業訪問や同窓会・校友会HP等を通して把握している。しかし、卒業アンケートのような詳細な把握に至っていないため、長期的なキャリア形成における活躍・評価を検証できていない。

② 今後の改善方策

定期的な卒業アンケートを実施し、卒業数年の卒業生への現況調査を実施する。今年度は、離職率調査として卒業3年以内、5年前、10年前の卒業生に試験的に現在の勤務先調査を実施した。集計・検証は今後、実施予定である。

③ 特記事項

なし。

《学校関係者評価委員会での意見》

3年後の退職率に関する中卒・高卒・大卒の調査がある。調査方法など参考にしてみてもどうか。

デザイン業界もWキャリアなど就労の仕方が変わってきている。何がベストか結論は出ない。

何を持って学習成果とするかが難しい。身に付けたスキルと違う業界にいても、幸せなライフスタイルを送っている人と接点を持つことが必要。

	評価項目: 適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
		評価	評価の理由	評価	コメント
5 学生 支援	1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	学生必携にて就職活動の支援体制や各種書類について説明している。学生就職状況は定期的に部会を開催し、情報共有・問題点の分析を実施している。	4	自校内で行う支援については、きめ細かく仕組みが出来ている(安武) 高いレベルで整備されている(鈴木)
	2 学生相談に関する体制は整備されているか	4	クラス担任への相談や就職担当への就職相談に加え、学校カウンセラーへの相談の場を設け、学生・保護者双方の相談対応を勧めている。	4	オリエンテーションでの紹介もあり、活用しやすい仕組みを作っている(鈴木)
	3 保護者と適切に連携しているか	4	就職保護者会や三者面談等連携を図る場を設けているほか、必要に応じて保護者に連絡、または面談を随時実施し記録に残している。	4	
	4 社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	本校での正規課程の履修を終えた学生の更なる学習機会として、1年間の「マスター科」を設置している。	4	マスター科での個々の学生ニーズに対応した教育に期待したい(安倍)
	5 卒業生への支援体制はあるか	3	卒業生加入の校友会組織、卒業生向けのFacebookページより卒業セミナー等告知は実施しているが、卒業セミナーは学科により差がある。公式サイト卒業生求人紹介ページ設置に向けて検討を開始した。	3	校友会科活動を促す(原) 卒業後も頼れる場であって欲しい(鈴木)
	6 図書室・図書コーナー等、ホットライン、カウンセリングサービス、コンピュータの利用、メンタリングなどの学習サポートについて案内しているか	4	学生が利用できるPC等学内施設やカウンセリングサービス、図書サロンの活用のため、オリエンテーション等で周知している。	4	
	7 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	優遇制度により学生を顕彰するとともに、学生課より奨学金や教育ローン、学費サポートプランなどを学生、保護者ともに案内している。	4	
	8 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	学生健康診断を毎年4月に適切に実施し、必要に応じた指導を行っている。またアレルギーに関しては事前に聞き取りをして対応している。	4	
	9 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	学生の課外活動を履修に支障がない範囲で紹介・支援し、一部は成績書等に記載している。	4	
	10 学生の生活環境への支援は行われているか	4	定期的に学生との個別面談を実施し、学生の生活環境を聞き取り、必要な助言を担当や学科長等から伝えている。	4	
	11 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	高校内で実施される職業説明会等に積極的に参加し、高校内でのキャリア教育との連携を図っている。一部高校については提携授業を実施している。	4	

① 課題

卒業生の再就職・転職に対する学校としての環境整備が不十分。

② 今後の改善方策

学校に寄せられる卒業生求人、卒業生が確認出来る環境として最善の方法を検討する。

③ 特記事項

プロジェクトチームを編成し検討を始めている。

《学校関係者評価委員会での意見》

ハローワークとの連携はどうなっているか

・連携は常時行っている。一般就職指導は本校の苦手分野であり、ハローワークとの連携が必要となる。

4 マスター科の実状・授業形態はどうなっているか。1年多く学ぶと就職に有利か。

・大学で言う大学院。通常運営している授業から自分で選択して受講するものが半分、残りは自主制作。

・幅は広がる。自主的に高めようとする学生のみが合格となるのがマスター科である。

	評価項目: 適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1	自己点検・自己評価		学校関係者評価		
		評価	評価の理由	評価	コメント	
6 教育環境	1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4	各教室ごとに教室管理・火元管理責任者を定め、各教室の適切な維持管理と既存設備の保守点検を実施している。	4	
	2	学校施設・備品等が定期的に管理・点検されているか。	3	物品のチェックリストが作成されていない。(ものづくり工房など)美容師科新設・建築士・インテリアコーディネーター科の廃止に伴い、管理・点検システムの見直し。	3.5	移行期間としての対応は適切に行われている。(安倍) 自己評価に準じる(安武)
	3	教職員に対して、学習指導のための教育訓練や安全管理のための避難訓練を実施しているか	4	地震を想定した避難訓練は実施されている。加えて2016年度はシェイクアウト訓練を実施し、有事の際の対応力を強化した。	4	
	4	防災に対する体制は整備されているか	4	災害備蓄品の備え、学生避難訓練の実施、学校飼育動物への対応など、防災体制を整備している。	4	
	5	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	インターン実習や国内研修、海外授業など、学外で行われる教育活動の前には直前セミナー等を実施し、安全な実習ができるよう指導している。	4	インターンシップという名称で一括りにするよりも、学年ごと時間・目的・運用を変えて教育内容を整理するとともに、キャリアの多様化の一助にはどうか(安武)

① 課題

・学校施設・備品等は定期的に管理・点検されているが、物品のチェックリストが作成されていない。

② 今後の改善方策

・新設の「ものづくり工房」「シャンプー室」の設備・備品や、美容師科新設・雑貨・プロダクト・建築・インテリア科の廃止に伴い、管理・点検システムを明文化する。

③ 特記事項

・デザイン校として授業外での教室・設備使用の頻度が高いため、環境維持の為に管理・点検する仕組みを定着させる。

《学校関係者評価委員会での意見》

校内が綺麗であることをもっとアピールして良い。

・環境管理＝教育環境そのものとする。学生自身が清潔に保つことが出来るよう指導している。

5 インターンシップは武器にも弱点にもなる。学校独自の取り組みは何かあるか。

・3年間で4回行われるが、1年2月は職場見学、2年8月は業種・職種選び、2年2月は採用実習、3年8月は就業前研修と位置付けて考えている。

	評価項目: 適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
		評価	評価の理由	評価	コメント
7 学生の受入れ募集	1 学生募集活動は、適正に行われているか(例えば、入学願書などの契約書を取り交わし、それらの文書を適切に管理しているか)	4	AO入試、推薦・一般入試ともに、入学願書の提出を必須とし、その他出願資料と合わせて適切に管理している。	4	
	2 履歴書(学歴、所有資格など)を適切に入手し、適切な管理を行っているか	4	入学願書に加え、調査書等出願書類により入学資格の有無などを正しく把握できる体制をとっている。	4	
	3 学校案内等には選抜方法など、入学に必要なスキル、資格、職業経験などの、前提となる要件が明示されているか	4	募集要項を作成し、入学資格および受験方法を記載し、適切に周知を図っているとともに、公式サイトでも公開している。	4	
	4 学校案内等に、学費、受験料、学習教材の購入費等が明示されているか	4	募集要項内に、学費等の一覧および納入期限等を明記し、受験者並びに保護者が学費等に対し正しく理解されるよう配慮している。	4	
	5 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	学校案内パンフレットにて教育概要を伝えつつ、就職先内定速報を作成・配布し教育成果を発信している。資格取得実績等はOC保護者会でも説明している。	4	
	6 評価手段及びその基準、修了時に発行される証明書等について説明しているか	4	学生必携において、評価規定ならびに各種証明書発行について記載し、入学後オリエンテーションにて説明している。	4	
	7 学力の不足や障がいに関する特別なニーズを特定しているか	4	入学試験において、履修上、就職上支障となる志願者の事情を確認し、履修に不具合がないように配慮している。	4	
	8 教育の履行、人的・物的資源の提供、個人情報等の取り扱い、安全管理など、学校側の義務と責任を学生と保護者に案内しているか	4	OC保護者説明会、入学後説明会、オリエンテーション、保護者会にて、学校の取組み等を説明している。	4	
	9 学納金は妥当なものとなっているか	4	在学中に必要な経費を募集要項内に記載し、学費に関する理解を図っている。	4	
	10 志願者状況、定員充足率はどうか	2	志願者数・入学者数ともに昨年度を上回っているが、定員・目標数までは至っていない。	2.8	新入生増加の要因は何か(安武)充足に向けての計画・行動はなされている(鈴木)

① 課題

・学生募集における情報提供や学生個人情報の管理は適正に行われている。入学者数の確保が課題である。

② 今後の改善方策

・志願者増を目的に、高校1・2年生を対象にデザイン系職種に興味をもってもらうことを目的とした技能向上イベント「イラストキャンプ」を年5回実施することとした。
・低学年から本校に興味を持たせるための職業教育など、高校2、3年生以外とのコンタクトにも力を入れる。

③ 特記事項

なし

《学校関係者評価委員会での意見》

美容師科の現実と将来展望をどう理解しているか。

・浜松に美容師養成校が1校のみであり、県内300人の美容師希望者がいる。開校以来初の国家資格取得必須学科であり、特色を出しにくい。

・1年後と5名ずつの増加を目指す5年計画で考えている。

10 美工研にて高校教諭と面談。高校でもデザイン系授業を取り入れているが、美大出身教諭ではやり切れない部分がある。高校教諭の専門学校や業界の印象を更新する必要がある。

	評価項目: 適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1	自己点検・自己評価		学校関係者評価	
		評価	評価の理由	評価	コメント
8 教育の内部 質保証シ ステム	1 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	就業規則内に機密保護管理規定を設け、個人情報保護に努めている。	4	
	2 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	教員数、教室数、学生管理等、専修学校設置基準に準拠した運営を実施している。	4	
	3 文書管理規程、文書管理リスト(ファイル管理簿)ならびに決裁の流れを含む決裁規程(文書処理規程)が文書化されているか	2	文書管理規定は現在作成中。一部文書に「機密文書」とわかるよう刻印等つけているが、完全ではない。	2.5	自己評価に準ずる(安武)
	4 自己点検・評価や内部監査の実施と問題点の改善に努めているか	3	自己点検非担当者による内部監査を実施し、自己点検・評価の問題点等の改善を抽出しているが、昨年指摘事項のすべてが改善されていない。	3.3	自己評価に準ずる(安武)
	5 監査や評価基準の知識を有する適任者により適切に監査され、当該課程・部署の責任者に監査結果を報告しているか	4	研修修了者による監査を実施し、責任者に対して結果の報告を行う体制を整えている。	4	
	6 内部監査での指摘事項として、改善すべき点を明確にしているか	3	是正処置及び予防処置規定に則った形で運営されることで明確化されるが、全職員への浸透が不足している。	3.3	講師会での共通理解を図りたい(安武) 学校の規模に照らして、計画・管理の業務範囲が増えているように感じる(安武)
	7 内部監査の結果を受けて取られる処置が、適切な時期及び適切な方法で実施されているか	3	是正処置及び予防処置規定に則った形で運営されることで実施されているが、全職員への浸透が不足している。	3.3	講師会での共通理解を図りたい(安武) 自己評価に準ずる(安武)
	8 自己点検・評価結果を公開しているか	4	公式サイト内、学校情報ページにて過去のものも含めて公開している。	4	

① 課題

・文書管理規定が作成中となっている。また、監査体制は整備され改善点を明確にしているが、改善するところまで至っていない。

② 今後の改善方策

・監査で指摘されたことを改善する担当者を明確に決め、関係者間で共有する。

③ 特記事項

なし

《学校関係者評価委員会での意見》

なし

	評価項目: 適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1	自己点検・自己評価		学校関係者評価		
		評価	評価の理由	評価	コメント	
9 財務	1	財務について会計監査が適正に行われているか	4	会計監査を毎年実施し、監査報告書として文書で記録している。	4	
	2	財務情報公開の体制整備はできているか	4	決算後、財務状況を公式ホームページ内学校情報ページにアップしている。	4	
	3	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3	学生数の減少により、短期的に厳しい状況となったが、次年度は改善する見通しとなっている。	3.5	安定するため努力している(鈴木)
	4	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	収支計画、予算の策定など有識者による助言をもとに適切に作成し、実行している。	4	

① 課題

・2016年度は総学生数の減少により、前年に比べ学費収入が減少したため、経費管理を見直した。

② 今後の改善方策

・2017年度以降は学生数増加の見通しが立っているが、経費管理の徹底は継続し、冗費削減等を推進する。

③ 特記事項

2017年度は3年制学科が完成年度となり、3年生の学生数が総学生数に対し純増する。

《学校関係者評価委員会での意見》

なし

	評価項目: 適切・4、ほぼ適切・3、やや不適切・2、不適切・1	自己点検・自己評価		学校関係者評価		
		評価	評価の理由	評価	コメント	
10 社会貢献・地域貢献	1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	地域の中学生や高校生の職業体験の受け入れを実施し、キャリア教育を支援している。	4	
	2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	デザインやビューティー技能を基に地域貢献と教育的観点の双方で、成果となるボランティア活動を支援している。	4	
	3	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3	卒業生や社会人向けの「卒業後セミナー」を定期的に開催し、地域に対し情報発信を進めている。教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等は少ない。	3.3	スキルアップに関するOBOG+産業界向けの場のニーズはあり、主催ではなく共催・協力というポジションでOBOGが何らかの任意団体を組織してくれると良い(安武)

① 課題

・主に小中高校生のキャリア教育の情報源、発信源としての取組を強化する必要がある。

② 今後の改善方策

・教育施設の見学会や体験授業、商業施設でのものづくり体験などを継続的に実施しつつ、今後のデザインビューティー業界を担う児童生徒のキャリア教育において、導入的役割を果たす。

③ 特記事項

なし

《学校関係者評価委員会での意見》

3 デザイン校ではどんなセミナーを開催できるか。

・業界最新情報の提供の場として講演会・新しいPCソフト・アプリの補完・扱い方指導などを検討。

11 国際交流(必要に応じて)		自己評	自己評価の理由	学校関係者評	コメント
11 国際交流 (必要に応じて)	1	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	-	-	
	2	留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	-	-	
	3	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	-	-	
	4	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	2年次・3年次の海外授業において、日本での学習成果を海外の事業所で発表する等の機会を設けている	4

① 課題

・2017年度は初となる3年制学科の海外授業(イラストレーション科/広告・写真・Webデザイン科)を実施する

② 今後の改善方策

・在学中で2回目となる海外授業では、2年次に参加したロンドン・ニューヨークコースでの視察型研修を踏まえ、現地実習型、デザイン技能提案型の研修プログラムを構築できるよう、準備を進めている。

③ 特記事項

留学生の受入や派遣は、学習言語の点及び卒後の進路指導での制限(就職)の関係上、積極的に行っていない。

《学校関係者評価委員会での意見》

アニメの影響で日本語の読み書きが出来る留学生が多い。デザインを通じた海外交流もポイントになるのではないかと。

・海外授業にて海外学生と交流予定。フランスにバンドデシネという日本の先を行くマンガ文化あり。